

第4回王子駅周辺まちづくりガイドライン検討会

議事録

日時：2022年10月19日（水）10:00～12:00

場所：北とぴあ 1601 会議室

1. 開会

事務局 ・開会宣言

2. 部長挨拶

都市拠点デザイン担当部長 ・開会挨拶

技監兼鉄道駅関連プロジェクト担当部長 ・開会挨拶

3. 出席委員数の報告と資料の確認

事務局 ・出席委員数の報告（会議の成立）
・資料の確認

会長 ・会長挨拶

（1）王子駅周辺まちづくりガイドライン（案）について説明

会長 それでは議事に入ります。まずは、次第の2（1）王子駅周辺まちづくりガイドライン（案）について、事務局から説明をお願いします。

事務局 ・配布資料1、2にもとづき説明

会長 冒頭に話がありましたように、今までご議論いただきまして、本日は締めくくりの会ということです。今までにいただいた貴重なご意見を踏まえて、修正をし、資料をご提示しております。後ほど、時間が許せば、皆さん一人ずつに総括的なコメントをいただきたいと思っています。その前にご紹介いただいた修正案、資料1と2につきまして、修正についてのご意見、新たな視点でのご意見なども歓迎です。具体的なご意見、ご質問がございましたら、挙手の上、ご発言いただけたらと思います。

委員（都職員） 以前から比べるとだいぶ改善されています。ありがとうございます。私は街路の担当であるため、その視点からになりますが、P45、46について、凡例の中で「広域的な交通処理機能を担う道路」と表現されていますが、この広域的な交通処理を担う道路というのはどういった定

義であるのか。都市計画道路が全て塗られているわけではない。今回検討するエリアの中だけ塗られているのかと思えば、そうでもない。また、P46の図ではP45と同じ図が描かれており、P45の凡例が広域的な交通処理を担うということですが、P46になると「自動車交通ネットワーク」という言い方になっています。自動車交通ネットワークというのは、車が走れる空間を指しているのかということもそうでもない。少し凡例の雑さが目立つため、事務局の方で表現を工夫してほしいと思います。

事務局

今回、この部分に凡例を付け加え、修正しました。少しでもわかりやすいようにということで、凡例での表現にばらつきがあるのはご指摘の通りだと思います。最新版に向けて、適切に表現できるように修正していきたいと思います。

委員（都職員）

前回意見した内容を反映していただいたと思います。幹線道路の明治通りで駅の中央口と北口が歩行者の目から見れば分断されています。これから駅の中央口、北側の方へ第一弾のまちづくりの整備が進んでくると、中央口に人の重心が移ってくる。一方で北口はバスターミナルでもある大きな交通広場ですが、そこも集約し、歩行者の空間が広がっていく。北側の方は、どちらかと言えば平面であり、ウォークアブル。中央口の前の道路は、平面はあるが明治通りをどこかで渡らなければいけない。そのところで、防災上のデッキネットワークが中央口側に張るのであれば、北側にもデッキを繋いでいく必要があるのではと前回意見させていただきました。今回、それを反映していただき、ありがとうございます。人の流れというのは、平面中心なのか、デッキを使ってどのように人を流していくのか、これから王子のまちづくり全体を変更したりして仕掛けて検討し、まちづくりの動きもあわせて出てくると思います。そこと併せて効果的な動線を、さらに詳細に検討されていくかと思います。整備のスケジュールのところも同様に、動きにあわせて、少し先行して検討されることもあると思います。特に、駅の北口側は、これからどう誘導していくかが重要だと思います。

事務局

明治通りを挟んだところは、歩行者から見たら分断されているのでどうしていくかということですが、歩行者ネットワークの断面イメージで中央口と北口を結ぶ線を表現し追加させていただきました。必要性はあり、整備していかななくてはいけないですが、ネットワークのイメージとして線を引くことも具体的な施策としてはまだ入っていない状況です。仰る通り、先行実施地区である中央口周辺を中心に進めていきますが、それにより周辺のまちづくりが刺激されて新たな動きが出て

きた中で北口も含めた検討をガイドライン以降も行っていき、追加される整備計画なのか、改定されるガイドラインなのかに精度を高め、更新していくことを引き続き検討していきたいと考えております。

会長

今回の課題の一つであると思います。皆さんにご理解いただいていると思いますが、一方で難しい課題があります。分断については、3次元的な隙間を見つけながら、上手く繋いで実現していただきたいと思っております。

副会長

前回から今回にかけて、時間がない中、充実化させていただきありがとうございます。特に 47 ページ以降の 6 章について、「王子共創」の仕組みづくりが長期に渡るまちづくりにおいて重要だと思っておりますが、関連の内容をかなり充実化させていただきました。読んでいて、長期に渡る体制づくりや仕組みづくりが進むことに期待が持てると思えました。ただ、48 ページの図について、分かるようで分からない部分があります。補足できるのであれば、お願いしたいと思っております。最近、エリアプラットフォームという言葉をよく聞きますが、エリアプラットフォームと王子共創会議の違いなどについて、この図を見た方は疑問に思われるかもしれないと思えました。具体的な内容を補足していただけるとよいと思います。私の理解では、エリアプラットフォームというのは、一つの会議体だと思っております。ただ、明確な結論を出すような、或いは意思決定する会議体ではなく、プラットフォームに参加する組織、事業者が現在の状況を情報共有する場であり、その情報に対して意見や助言を行いながら情報交換していく場と思っております。それに対して協議会は、意思決定に近い会議体だと思っております。いろいろなプロジェクトが短期間に同時に進むため、横の情報共有が非常に重要であり、その場としてエリアプラットフォームをつくるという主旨かと思っておりますが、如何でしょうか。また、51 ページのロードマップが動き出した時にどのように機能するのかも、補足していただきたいと思っております。もう一点、63 ページの重要な取組の 24 番について、石神井川の水質改善が区民の方々の最も関心が高いことである点がアンケートでもわかりました。もしかしたら、今後、質問が来るかもしれないので、補足した方がよいと思えましたのは、これまで実施してきた対策を継続するとともに、「効果的な対策」を検討するという、この「効果的な対策」とはどのようなイメージかという点です。共有できるのであればしていただいた方がよいと思っております。長年のこの地域の難しい課題であるというご説明は頂いていますが、対策という言葉が使われているので、区民からの質問が来た際にも、対策の内容を補足していただいた方がよい

と思います。

事務局

48 ページの共創会議とプラットフォームの違いについて、なかなか伝わりにくい表現かと思います。副会長の仰るとおり、共創会議は、どちらかという意思決定を行っていく会議であり、プラットフォームは情報共有などを中心としながら、緩やかに連携として表現させていただいています。関連するプロジェクト、並行しているものについて、情報共有、意見交換をし、また行動と検証を行うということはエリアプラットフォームの活動内容と想定しています。48 ページの段階の体制づくりについて、計画段階で事業化整備の間のところで、エリアプラットフォームの準備段階を緑の点線で示しています。エリアプラットフォームがどのような場であるべきか、発起人、準備段階からやっていき、エリアプラットフォームの名称も含めて、具体的な名前或いは活動内容の議論から当事者で議論していきいただき、区の方で決めつけない方がよいと考えています。それでこのような表現をしております。いただいたご意見を踏まえ、一般の方が見てわかりやすいように表現を工夫して検討したいと思います。

副会長

特に行動と検証がどういったものかが分かりにくいので、具体化して頂きたいと思います。

事務局

24 番の効果的な対策として、長年取り組んできて、解決の糸口が見えていないのですが、石神井川の水質改善については、スカムが発生しており、悪臭の原因となっています。この先さらなる効果的な取り組みとしては、スカムを物理的に取り除く取組が想定している具体的な施策となりますが、それがどの程度効果を発揮するかは不明確であるため、現在のような表現になっています。ガイドラインの中に、不確実な内容を載せるのは憚られるので、どのような表現で修正していけるか引き続き考えたいと思います。

委員

24 番に関連した質問ですが、東京都の河川部の方もお見えなので、石神井川の水質改善についてお知恵をお借りしたいです。この命題は、全体として王子駅のまちづくりの中に入れるのは当然として、住民にとっては、臭いがするという事は喫緊の課題であるので、ここで議論するような内容でもないですが、今年度・来年度には予算において、北区と東京都で協議をしながら、一步ずつ解決していくテーマだろうと思います。ガイドラインの書き方は、これで良いですが、効果が上がらないのも予算が沢山投入されておらず、少しずつやっているから進まないのかもしれないし、いろいろな考え方があると思います。私はあまり知恵がないので、ここで知恵を伺ったうえで、別途東京都にお願いを

していかないといけないかと思ひます。

委員（都職員）

水質の取り組みについては、環境改善として多様な手法が取られています。事例としては他地区のものもありますが、地域の特性もあるので、原因によって対策、取組をしていく必要があります。そういうことも含めて、ガイドラインの記載はこのような内容で、原因をきちんと確認し、具体的にどういった対策が取れるかは個別に対応していきたいと思ひます。

委員

いろいろなアイデアがあると思うので、実験の場にしても良いと思ひます。今まで何をやってどの程度の予算が投入されてきたのかという点も含めて別途資料を出していただき、検討しながら、ご相談させていただきたいです。よろしくお願ひします。

会長

こちらに関しては、別途考える必要があるというご指摘があったので、ご検討いただければと思ひます。協議ということで、ガイドラインの記述に関しては現在のような記載内容でとどめることで良いかと思ひます。

会長

資料1の38ページ、39ページのウォークブル・ガーデンという名前は非常に素晴らしいと思ひます。渋谷栄一はガーデンシティに深く関わっているので、その名前をみただけで王子らしいという感じも出てきます。39ページの前回に指摘していたコネクティング・コアとの関係性についても階層的に表現し、分かりやすくなりました。その上で、39ページの図のみを見て、ウォークブル・ガーデンをイメージするのは難しいのではないかというのが感想です。人が動くイメージや自然のイメージを表現する工夫の余地があるのではないかと思ひます。貫通道路もウォークブル・ガーデンの中を通るので、そのイメージがないような気がするし、このガイドラインの中で目玉になる部分でもあるため、図について検討をお願いしたいと思ひます。

いろいろとご指摘をいただき、修正いただいたところも分かりました。皆様から締めくくりのコメントをいただきたいと思ひます。

委員

第1回から4回に渡り、策定検討会に参加させていただきました。1歩ずつではありますが、地元の要望を受けていただいている印象です。「王子共創」を掲げ、ミッションを達成するためにどのように進めるのか。戦略の1、2、3とありますが、具体的にまちづくりを進めていただけるとありがたいです。この間隔の中で10年先、20年先の大まかなまちづくりのガイドラインではなく、5年先にどういったビジョンが駅前に現れるのかや、ウォークブル・ガーデンがどういったかたちで賑わいを創出するのかを段階的にしっかりと絵を描けるようなも

のを地元住民に提示していただけるとありがたいと思います。防災に関して、中央口を南北に縦断している京浜東北線のラインは、震災時と水害時とでは、避難ルートが大きく変わってくるので、その辺の流れを植え付ける必要性があると思います。危機管理課からは、震災時には、王子エリアの方々は飛鳥山公園には逃げてはいけないと言われていました。ガードが崩れてしまうので、必ず平地の方へ逃げてほしいとのこと。逆に水害が起こった際には、高台である飛鳥山に逃げることになっています。逃げ切れない方は、垂直避難をとということですが、自分の命は自分で守る必要があります。地域性に伴い、いろんなケースがあるため、考慮して進めていただきたいと思います。

委員

ガイドライン策定の中で一番関心があるのは、王子駅南口エリアの開発です。王子駅の北口、中央口とありますが、南口の開発が進んでこなかった現状の中で、今回は大きく取り上げられています。1つは石神井川の悪臭問題について、地域のアンケートの中で非常に危惧されています。南口周辺が、開発されることにより、今後新庁舎に通う方が多くなる中で、ウォークアブルなエリアということで、散策などをする方が多くなると思います。ところが現在も春先は、悪臭で鼻をつまみながら歩く方が多い状況です。従来からいろいろな対策が取られてきたことは認識していますが、さらに効果的な方法がないかを区と都と一緒に案を出していただき、いろんなかたちで実施してほしいと思います。他の河川でもこのようなことは多いです。実験的な場としても良いと思うので、悪臭対策に取り組んでいただくことで、ウォークアブル・ガーデンが気持ちよく歩けるようにまちづくりを進めていただきたいと思います。

委員

グランドデザインから参加させていただいている身として、今回のガイドラインの完成度は、すばらしく進んだ印象です。それと同時に東京都の委員にも参加いただき、活発なご発言に感謝いたします。区と国がしっかりとつながる中でスタートラインに立ったと思います。そのうえで、石神井川の悪臭対策を議論している中で、10年15年かけてやるのではなく、喫緊の課題であることが浮き彫りになりました。区だけでやるのではなく都の知見や国の制度などを使った方が、解決につながるのではないかと思います。行政の施策にフィードバックし、すぐにやれるものはやる。王子駅に限定せず、具体の連携につなげていただきたいと思います。技監にも期待したいです。この間の会議からの感想ですが、先日、北朝鮮からのミサイル発射を受けて、Jアラートが鳴りました。その時に窓のないところへ避難しろと言われても、殆どが避難

できない。今度の高層ビルも街に建っているものを見てもガラス張りで非常に開放的なものをイメージされるが、世界情勢を見ても、10年、15年という単位で考えたら、災害や防災という観点でまた、防衛のことも考えた方が良いのではないかと感じます。世界各国でいろいろなシェルターを用意しているのを見ており、備蓄倉庫を作れば容積率をアップできるとかが災害全般では用意されていますが、そういうものも兼ね備えながら、同様にシェルター的な機能も考える必要があるのではと思います。ガイドラインのスタートとして、建物を建てていく際に、そのようなことを考えていくことが国への要望につながっていければよいと思います。

委員

ガイドライン策定後に王子共創会議が立ち上がるということですが、住民、地権者、交通業者、行政区間、専門家等とありますが、関連する事業者や関係機関がぶつからないと良いなと思います。これからぶつかる場所も増えてくるのではないかと考えています。その前にエリアプラットフォームエリアがありますが、協議調整してから王子共創会議に上げていくと話が順調に進むのではないかと考えました。また、ウォークブル・ガーデンとありますが、ガーデンというのは緑が沢山あり、庭という意味ですが、ガーデン内に私たちの会員、企業が多く、ガーデン内でものづくりができるのかと心配です。これからものづくりが続けていけるような王子共創のまちであってほしいと思います。

委員

今日の話聞き、10年、20年、30年と非常に長い話であると思いました。51ページの表を見ると、もっと早くできることがあるのではと思います。バス停の問題などは、15年となっている。例えば、先ほど話があった5年スパンで考え直すことも考慮すると当分進まない印象です。もう少し早くできるような方策を考えてほしいと思います。

委員

このプランが良いきっかけになると大変期待をしています。王子に住んで70年になりますが、いろんな問題が前に進んでいかなかったというのが地域の情勢です。駅前も50年間ほとんど変わっていない。変わらないことはある意味良さもありますが、この地域の問題点を根深くしていると思います。それで非常に期待をするわけですが、事業者も受け身で考え、住民も今の生活を守りたいと考える人が多いと思います。時代の転換点に立っており、これからどういうまちづくりをしていくかについて、それぞれの立場の人が真剣に協議をしていく必要があると思います。エリアプラットフォームをどうやって動かしていくか、どういった人が参加するかを検討していただけると全体として期

待ができるのではないかと思います。よろしくお願いいたします。

委員

10月末から始まる王子工場事業棟新築工事に関する説明会の開催に当たり、事前説明に伺った地元委員の皆様から貴重なご意見を賜ったことに感謝申し上げます。これらのご意見を踏まえ、施工業者と意思疎通を図りつつ、近隣にお住まいの皆様に配慮しながら、工事を進めてまいりたいと思います。

委員

鉄道事業者として、駅周辺のまちの皆様といかに連携させていくかという観点で議論に参加させていただきました。今回の検討会を通じて、まちづくりを今後どのようなかたちで進めていくのか、進めていくうえでの課題と解決に向けた方向性というものが策定されたと思います。ガイドライン策定後、王子共創会議という体制に移行していくことにおいても、引き続き鉄道事業者の役割を果たしていきたいと思えます。駅東西の歩行者ネットワークの整備について北区と協議させていただいているところであり、今後も関係者と整備スキームについて協議させていただきたいと考えております。

委員

ガイドライン策定にあたり、まちづくりのコンセプトだけでなく、今後の実現や共創体制、地元の皆様の王子のまちづくりへの熱意といったものを踏まえた内容で充実しているガイドラインであるという印象です。南北線は、将来の都市構造の中でも大きく取り上げられているように、地下と地上をつなぐ縦動線の歩行者ネットワークの連携を担うこととなります。バリアフリーの乗換動線の拡充が重点的な取組に入っており、主要なまちづくりの整備として明記されています。地元の皆様や街を訪れる方にとってバリアフリールートの拡充は非常に利便性を高める重要な政策であると考えています。引き続き、皆様と連携しながら、まちづくりに協力していきたいと思えます。

委員

王子のこのような大事な場面に携わらせていただき、大変うれしく、誇らしく思っています。一方で身が引き締まる思いで参加していました。これから話を進めていかなければならないことも多々ありますが、魅力的なまちづくりに向けてしっかり考えていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

オブザーバー

オブザーバーの立場として、まちづくりについて、補足させていただければと思います。これまでの皆様のご意見でガイドラインの案が概ねまとまってきたということで、これから公になる日が近いかと思えます。その中で、ウォークブル・ガーデンは、非常に大きな要素となってくると思えます。ガイドラインの40ページに各改札口に合わせた広場機能の役割がありますが、そこから連絡する各街区からどのような

機能を持たせるのか。ウォークブル・ガーデンとして居心地が良い、歩きたくなるものであり、どういったかたちで作っていくのか。プロセスについても検討する必要があると思います。ウォークブル・ガーデンの中でデッキの整備をされるとのことで、回遊性と防災の両方の役割を果たすと打ち出されていますが、そのために常時から使ってもらうためにはどのような位置にあるべきか、歩くだけの機能ではなく、歩きたくなる仕掛けがあるデッキとはどのようなものを議論していく必要があります。ウォークブル・ガーデンの範囲を拝見すると、民地内も含んでいるため、この中で生活をされている方々のご理解を得ながら、ガイドラインはこれから出来上がるということに加え、議論を進めていただければと思います。

委員（都職員） さまざまなご議論の中でガイドラインが充実したと思います。ありがとうございます。前回もお願いしましたが、拠点形成エリアの方で先行的に民間開発も進められていくと考えています。民間のプロジェクトをうまく誘導していくには、ガイドラインの内容をさらに具体化させていく必要もあると思いますので、都としても一緒に考えさせていただきたいと思います。引き続きよろしくお願いします。

委員（都職員） ガイドラインで大きなイメージが定まったところであり、イメージを具体化していく内容が多々あると思います。いろいろと試行錯誤して、デザインを含めて検証しながら進めていくと思いますが、引き続きよろしくお願いします。

委員（都職員） まちづくりの道路については大きな要素になるため、事務局には細かいことを言わせていただきました。新庁舎から飛鳥山公園へのデッキについても水害対策になるということで意見させていただき、こういった形になってきたと思います。まちの人たちは、長く愛されるまちとして使う施設であるので、この中身については、長いものでは30年と記載していますが、できるだけ早く実現していくという内容かと思っています。また、5年、10年経つと変化が出てくるので、皆さんとガイドラインの見直しをしていくことも必要であり、その点も意識して今後も取り組んでいただきたいと思います。

委員（都職員） 水質に関しては、区と別途意見交換させていただきたいと思います。これまでの経緯も含めて、連携して取り組んでいければと思います。また、石神井川に関しては、周辺の歩行空間、具体的な整備、今後具体的なメニューが決まれば、それに応じて協議させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

事務局 皆様方からいろいろとご意見をいただき、ありがとうございました。

王子共創会議を立ち上げて推進体制をしっかりと確立していくこと、ガイドラインの中身についてもまだふわっとしているため、具体化に向けて本日いただいたご意見を踏まえ、来年度以降しっかりと取り組んでいきたいと思っております。石神井川の臭気対策についても、ガイドラインの内容ではないですが、連携をしながら別途しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

副会長

整理をしていただき、全体的に分かりやすくなりました。位置づけに合った表現をしていただいています。スケジュールの表現について、10年20年というスパンが見えてくると、もっと早くできないのかという意見は出てくると思っています。今後公表していく中で、どうすれば早められるのかという観点も踏まえて区民に説明していただけると良いと思っております。交通結節点の利便性を確保しつつ、ウォークラブルなまちを作っていく。両立するのは難しいですが、いろいろな事例があるということで、以前事例視察した姫路では、交通広場の中にタクシープールが多くを占めていたが、その解決策としてタクシー待機場所を少し離れた場所に作って、ピストン運行するという運用をしている工夫がありました。ハード整備と並行してソフト的な施策も出てくると思うので、同時に検討していただければと思います。神戸三宮の駅周辺は部分的に広場の整備が進んでおり、多様なベンチなどがあり、面白い作りになっている。そこで、いろんな過ごし方ができるように、人が滞在できるような空間ができていました。駅前の広場ですが、PCを広げていたり、寝転がって青空を見ていたり、居心地のいい空間の具体例かと思うので、いろんなアイデアを参考にして具体化へ進めていただきたいと思います。周辺の皆さんを取り込んで、方向性を示していただければと思います。地元の方と王子らしさをつくっていただきたいと思います。最後に、水質に関して、これまでの取組で効果が出ていないことに関して東京都にいた立場上申し訳なく感じています。ここに来る前に川を見てきましたが、上から水を垂らしてみたり、水中で水流を流してみたり、もともと川の勾配が緩やかで、流れがないところにどう流れを作っていくか、対応していくか。これまでも様々なアイデアをいただいて取組を行ってきましたが、結果的に抜本的な解決に至っていません。今後とも、専門家の方からアイデアをいただきながら、取り組んでいただければ幸いです。川の構造そのものについては変えられないですが、うまく流れるようないい方法を見つけてほしいと思っております。

副会長

短時間で集中的に作業していただき、充実したまちづくりガイドラ

インの案を作成いただき、改めて感謝申し上げます。また、建設的なご意見を委員の方からいただきました。私事ですが、座長を務めさせていただいた先の協議会において、「王子駅周辺まちづくりグランドデザイン」が平成29年7月に策定され、そこからスタートした過程の区切りとして今回のガイドラインの案が検討されてきたと思います。その内容はとても充実しており、他の自治体の類似のガイドラインと比較しても、全く遜色がないと思います。このガイドラインをもとに地域の新たなブランドが作られていくことに期待したいと思います。今後のことを考えると、まちづくりガイドラインができ、そこに至るまでの議論を踏まえ、関係者の意識が共有され、環境が整ってきたところだと思います。今後は、これを具体のハード、ソフトのまちづくりとして進めていくためのトリガーとなる方が誰であるかが関心事になるのではないかと思います。スポーツに例えていうと、今は0対0の均衡状態です。これを打破するためには誰かがリスクを覚悟で進めていかなければならない。それを味方がフォローしていかなければならない。今はそのような状態であると思います。ぜひ均衡を破るためのサポートを東京都や北区、UR等に進めていただきたいと思います。座長を務めた先の協議会がとりまとめたグランドデザインの中では、王子を「北の拠点」として謳わせていただきました。今回のまちづくりの基本的なテーマですが、北の拠点の実現のためには、2つの仮想的なライバルが存在すると思っています。1つ目は東京23区を空から見ると南北格差が進んでしまうのではないかという危惧があります。東京23区の南側の都市開発は、高輪や東京駅の周辺などでこれからますます進んでいく可能性があるため、タイミングを逸しないところで北の拠点である王子の整備のサポートを進めていただく必要があると思います。このまま均衡状態が続くと、広域的に見たときに北の拠点としてのポテンシャルが相対的に下がってしまう恐れがあるため、東京全体を仮想的に見たときの王子の位置づけを常に意識して頂きたいと思います。2つ目はリスクです。一般に、民間企業が投資するリスクは常に存在します。鉄道事業者、駅周辺に土地を所有している事業者が地域に投資をすることには常に何らかのリスクがあると思います。それを軽減していくためには、ある程度の公共投資が必要だと思います。インフラ整備も、サポートしていくために必要だと思いますので、投資をするリスクを一つのチームとしてどう軽減していくかを意識して取り組んで頂きたいと思います。恐らく、東京都全体を見たときに、北側と南側で開発の差が出てくるのは、やはり投資力、事業者の存在が大きいと思います。この地

域にそういった事業者を引き込んでいくために何をすべきかを考えて頂き、リスクを軽減していくことを意識して取り組んで頂きたいと思います。

会長

副会長からご指摘があったタクシーの待機については、まさにデジタル・トランスフォーメーションの世界です。遠くで待機してもらい、適時来てもらえば、駅前広場にズラッと並ばなくて済むし、バスについても同じような検討が始まっており、駅前広場に沢山のバスが止まっている状態を避けられるのではないかということで、必要な時に出てきて、出発していくことで、かなり面積が減らせることが分かっています。そういったことも検討してウォークابل・ガーデンの中で空間を作っていくってほしいと思います。また、王子は東京の北の拠点であり、埼玉県民から見ると東京の入口でもあります。王子でJRとメトロの乗り換え客の埼玉県民率は高いと思います。南北線でJR乗り換えの方は、かなりいます。埼玉県民が東京へ行こうと乗り換えるタイミングで、少し時間があるときにゆっくりできる場所がない。忙しく乗り換えるだけとなっています。ウォークابل・ガーデンを作っていただき、時間に余裕があれば、そこでゆっくりしようかと埼玉県民は、思っているはずです。そのような場所があれば滞在すると思います。逆からの視点、北側からの視点も持っておいてほしいと思います。埼玉高速鉄道の延伸の話も高まっており、浦和美園のさらに先の岩槻駅まで伸ばし、中間駅も作ろうという話であります。かなり可能性が高まっています。ますます乗り換える埼玉県民の数が増えるのは間違いがないので、需要が非常に高まると思います。地元の方のためのまちづくりもそうですが、乗り換える人たちが楽しめる場所という視点もぜひ考えてほしいと思います。

事務局

皆様から非常に貴重なご意見をいただき、仰っていただいたように非常に素晴らしいガイドラインになったと思います。本日、いくつかご指摘があったので、必要な修正を行い、その内容をパブリックコメントにかけていき、多くの方からご意見をいただきたいと思っています。

(2) 今後の予定について

事務局

・今後の予定について説明(パブリックコメント、検討会後の修正点の会長一任、まちづくり推進体制)

会長

ただ今のご説明について、ご質問などはございますか。(特になし。)今後の修正については事務局で対応いただき、最終的に会長である私に一任いただくという提案をいただいた。よろしいでしょうか。(拍手)

が起る)

ありがとうございます。今後の修正については、責任をもって進めさせていただきます。適宜、必要な情報提供は、事務局から委員の方へ依頼させていただきます。

4. 閉会

以上